

NOW IS.

宮城は現在も
いま
現実に
いま
立ち向かう。

2018.6.11

Vol.
26
June, 2018

ナウイズ
毎月11日発行



別所哲也・in 松島町

この日最初に訪れた松華堂菓子店は、そんな街のなかでもひときわ目を引くシックな佇まい。1階はみやげもの店、2階は松島湾を望む喫茶室を併設した菓子店です。「松島の地元の暮らしや文化を感じてほしい」と思いつくつたお店です」と店主の千葉伸一さん。昔松島は霊場と呼ばれる神秘的な場所でした。今でも早朝に霧の中をランニングしていると、そういう雰囲気を感じるころがあります。積み重ねた歴史が作り出す美しさを感じてほしい、子どもに伝えたいと思うんです。淡々と、けれども熱く語る千

大好きな場所の未来のために。別所哲也さんと新しい松島へ。

歴史ある松島を
価値が生まれる地に。

「ベストポジションじゃないですか、ここ」。俳優の別所哲也さんは、カフェの窓際の席に座り、感嘆の声を上げました。窓の外には五大堂。奥には小島が浮かぶ海が見えます。日本三景、松島。この地も、大人の身長ほどの津波が海辺の店々を襲いました。直後は泥やがれきに覆われましたが、現在は多くの商店が再開を果たし、松島らしい和風の建物が並んでいます。



五大堂をのぞむ松華堂菓子店
「松島はポテンシャルがあって、仙台という大都市の近くにある豊かな田舎、東京でいう鎌倉みたいな存在になれるんじゃないかな、と思っています」と千葉さん。



マキシファームの内海さんと別所さん
別所さんは「内海さんは自分から楽しくやろうという気持ちがみなぎってますね」と笑います。



「未来のカレンダーが見えたよう
松島めぐりを終え、別所さんは

PROFILE
別所 哲也
べっしょ てつや
1965年静岡県出身。俳優、タレント、ラジオパーソナリティなど幅広く活動。カタルフレンド基金親善大使として、東北の復興を支援。代表を務める国際短編映画祭「ショートショートフィルムフェスティバル&アジア」でも、災害や防災をテーマにした取り組みを行っている。

葉さんの話を聞き、別所さんは深くうなずきます。「そういうこだわりを感じるお店ですね。古き良き伝統も、現代的な価値観も大切にしているというか。なんとなく松島の日常を感じます」。そうです。ねと千葉さん。「ゆっくり過ぎて、何度も来てもらって、最終的に住みたいなと思ってもらいたいです。ここ数年、復興パブルで、華やかだと根っこがないクリスマスツリーみたいなことがあちこちで起きました。一時はそれでもいいですが、ぼくはもっと長い視点が必要だと思います。時間はかかっても、地域に根付き、

人もこれならうれしいですね。」
笑顔で楽しむ
新しい担い手たち。
次に訪れたのは松島とまを栽培するマキシファーム。食べごたえがあって、酸味と甘みのバランスがいい「昔ながらのとまを」を最新式の大規模農場で生産。近

県ではめずらしいオランダ式の栽培方法を採用し、年間600トンを出荷しています。「この方法を知ったとき、トマトでも大規模に栽培できるのか、と驚きました。チャレンジでしたが、やってみたら、震災では温室のガラスが200枚割れました。片付けて、土を戻すところからのスタートでしたが、やっこの思いで復旧し、震災の年の6月から農場を再開しました。うちが最初に頑張るからほかの農家さんも頑張ると、という気持ちでした」と話すマキシファームの内海さん。珍しいやり方だから研究に来る農家さんもあるんです。みんな協力して新しいことをやっていたらいいですね」と広大な畑を案内しながら笑顔で話してくれます。別所さんも、社会科見学みたいで楽しいと少年のような眼差し。「農家というイメージを覆されますね。ダイナミックな発想で大胆にアクションしようとしているのが頼もしいです」と話します。

に思います」と話してくれました。千葉さんも内海さんも、自分が担い手だと自覚して、具体的な希望を描いて一歩一歩進んでいると感じました。冷静であたたかな眼差しで松島の行く未来を考えているなど、震災から時間がたち、しかも遠い東京にいて、宮城のことを考える機会が減ってしまっていますが、心のチューニングをあわせて、じっくり目を凝らせば、きっと共通の未来が見えてくると思っています。被災地としてではなく、日常を取り戻した普段着の場所として、「松島っていいな」と皆が思えるきっかけを作っていくてらいいなと思います。」



景観に配慮した防潮堤
日本三景の美しい景色を妨げないよう、町と協力して建設が進められています。



松島とま
「うまい！料理に使ってもよさそう」と試食した別所さん。「もっと食べたいですね」。

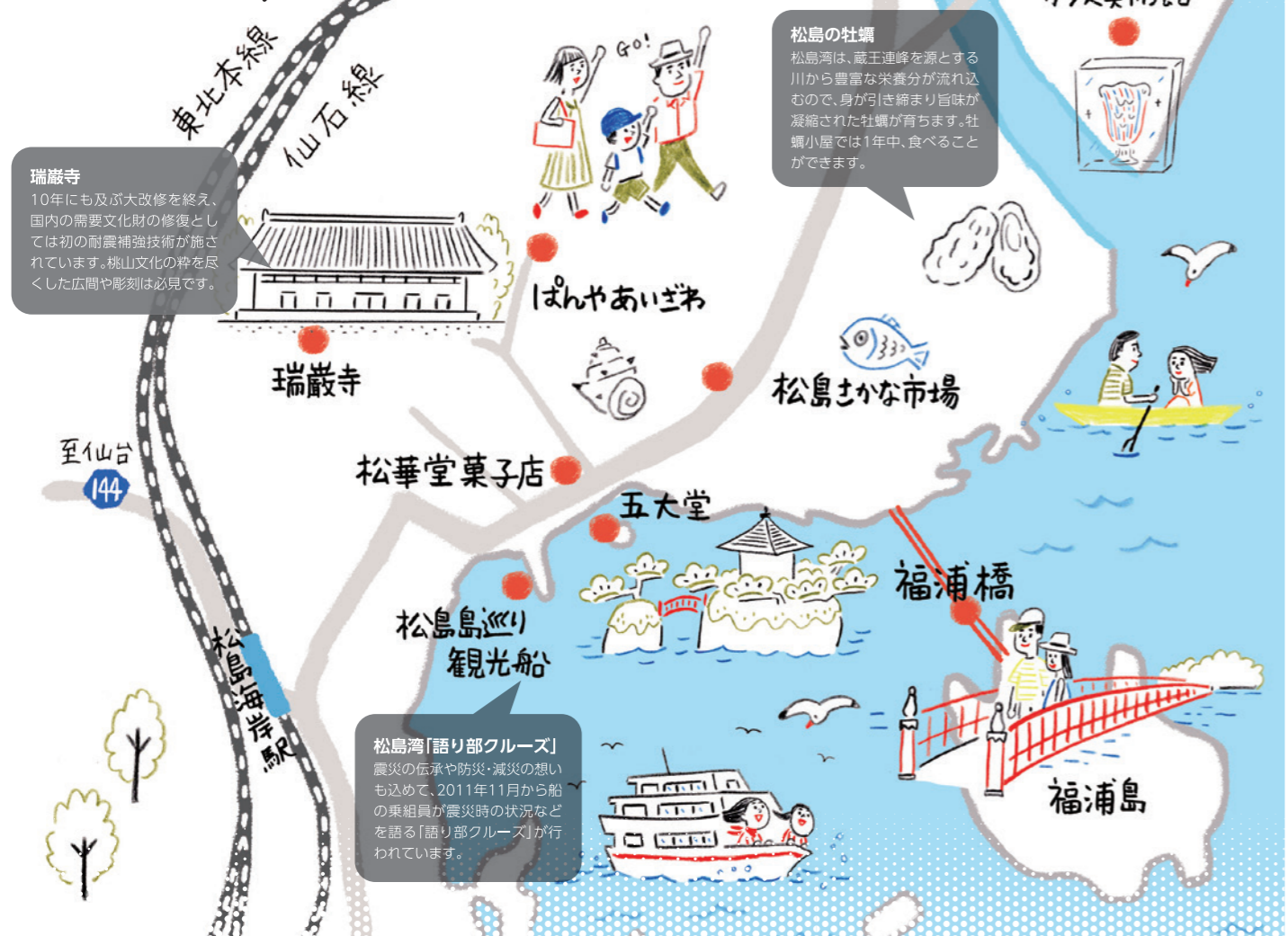


普段着で描く
未来の
カレンダー

松島 DAY OUT

MATSUSHIMA

日本三景の一つである松島は、大小260あまりの島々が点在する風光明媚な景色が魅力です。「松島島巡り観光船」の語り部や防潮堤など、震災にまつわる想いを感じながらぜひ巡ってみてください。



瑞巖寺
10年にも及ぶ大改修を終え、国内の重要文化財の修復としては初の耐震補強技術が施されています。桃山文化の粋を尽くした広間や彫刻は必見です。

松島の牡蠣
松島湾は、蔵王連峰を源とする川から豊富な栄養分が流れ込むので、身が引き締まり旨味が凝縮された牡蠣が育ちます。牡蠣小屋では1年中、食べることができます。

松島湾「語り部クルーズ」
震災の伝承や防災・減災の想いも込めて、2011年11月から船の乗組員が震災時の状況などを語る「語り部クルーズ」が行われています。



防潮堤
特別名勝松島の特別保護地区の保全と眺望に配慮し、防潮堤には島々の岩肌と調和する自然石「秋保石」を張り付けています。温泉地である仙台市太白区秋保地区から産出された「秋保石」は年月が経つにつれ趣が増し、より景観に溶け込んで味わいが出ます。



松華堂菓子店
「今と昔のいいところ」をコンセプトとした菓子店&カフェ。看板メニューの「松華堂カステラ」は、良質な材料を昔ながらの手仕事で仕込み、最新のオーブンで焼いています。ふんわりだけどしどしとしていて、どこか懐かしいのに新しい味です。



マキシファーム株式会社
松島で「松島とまと」の栽培をしているサンフレッシュ松島と、名古屋の商社・岡谷鋼機が2014年に「マキシファーム株式会社」を設立。新しい技術を取り入れ「松島とまと」の生産量を拡大し、海外輸出も展開。2018年4月には農産物の安全性に関する国際認証も取得し、さらなる販路拡大が期待されています。



磯崎漁業組合牡蠣直売所
東日本大震災の津波で、牡蠣の養殖施設などはすべて流されてしまいましたが、支援により2011年10月、県内でもいち早く養殖を再開。直売所では、新鮮な殻付き牡蠣やむき身を買うことができます。むき身は直売所に併設されている加工場で、手作業で行われています。



「松島とまと」は、年間600トンの量の一つひとつの手で収穫しています。それは、完熟したトマトを見極め、選定するため。栽培にはハイテク技術を導入していますが、最後は人による「手作業」という点に人の温かみを感じます。品種は「桃太郎8」を使っているそうです。手に取るとずっしりと重く、酸味と甘みのバランスが絶妙です。直売もしているそうなので、観光の際に訪れてみてください。



Support Power

PROFILE
松島町建設課管理班
みやもと まさお
宮本 正夫 さん
神奈川県より松島町に派遣

the 応援職員

NOW IS.
松島
Matsushima



松島湾を望む西行戻しの松公園は、宮本さんのお気に入りの場所です。



町道根廻磯崎線の一部完成道路。災害時は避難道路となる幅員16mの町道を整備しています。



長年培った経験を復興支援に役立てられたら。

「阪神淡路大震災の時、派遣職員の募集に希望を出したのですが、叶いませんでした。東日本大震災では今まで培ってきた経験が少しでも役立てばと思い、志願しました。その話したのは、2016年4月に被災地派遣職員として、神奈川県から松島町に来た宮本さん。

横浜市職員として、主に道路用地取得の業務に約15年携わりました。定年退職後、2014年から始まった神奈川県の派遣職員の募集に志願。その年から岩手県が進めている復興支援道路の用地取得業務に就き、県よりも住民に近い自治体を希望し、松島町の建設課管理班に異動しました。

日本三景である松島町は多くの観光客が訪れるため、現在は災害時にも多くの人たちがスムーズに避難できるように既存の道路幅を拡張しており、町道根廻磯崎線という新しい道路も整備中です。宮本さんは、その避難道路の用地取得業務を担当しています。

「地権者が近隣にいる場合であれば、用地交渉の説明会を開いたり、個別に訪問したりなど、十分な説明を尽くした上で信頼関係を築きながら進めます。ですが、土地の所有者が不明の場合には非常に時間がかかります。所有者不明には2種類あると宮本さんは言います。地権者の所在が不明で生存も不明の場合。もう一つは地権者が亡くなり相続登記されないままの場合です。町道根廻磯崎線では、法定相続人が66人いらっしゃるって、ほとんどが北海道在住。まずは全員に書面を送るのですが、分かりやすくなるための表現の工夫に苦労しました。所有者不明の土地を発生させないためにも是非相続登記をしてください。用地取得には、さまざまな法令などの専門知識が必要で、長年培った経験を活かし、宮本さんは日々業務にあたっています。

「今後も力になれる限り続けていきたいです。また、神奈川に戻ったときは「松島はいいぞ」と伝えていきます。多くの人に訪れてもらいたいですね」と話してくれました。住民は安心して生活し、観光客は安全に訪れることができるよう防災・減災の面も強化し、松島町の復興事業は進められています。

info/area

{エリア情報} 復興や防災にまつわるニュースをお伝えします

国宝瑞巖寺落慶慶祝前夜祭

「国宝瑞巖寺」の「平成の大修理」が完了し、2018年6月24日(日)に落慶法要が執り行われます。落慶を慶祝して22日(金)は前夜祭が開催され、俳優の千葉雄大さんが参列する武者行列やブルーインパルスの展示飛行、花火大会などが行われます。

- 日時: 2018年6月22日(金)
- 場所: 松島海岸中央広場周辺
- 内容:
 - ・武者修行/13:00~
 - ・ブルーインパルス展示飛行/15:00~
 - ・ブルーインパルス Jr. 展示飛行 1回目/12:00~、2回目/15:45~
 - ・花火大会/20:00~

※当日は混雑が予想されますので、公共交通機関等を利用してお越しください。
◎瑞巖寺慶讃会事務局 ☎022-352-9568
松島町産業観光課 ☎022-354-5708

今月のガイド MONTHLY GUIDE

有限会社 松華堂 代表取締役
千葉 伸一 さん

「松島にのんびりして来てください」と話す千葉さんの言葉には、さまざまな思いが込められています。

震災後に様々なプロジェクトに携わり、改めて東北の美しさ、豊かさを感じた反面、最近「復興」に依存するような空気に、バブル時代に戻ったような違和感があると言います。

「松島の人たちの心の豊かさを感じて、発信できるような土壌をつくろうと裏方として若い世代の応援をしたり、人を繋いだりなど種まきをしています。

大きな何かに依存するのではなく、「日々の暮らし」と「観光」が紐付いた魅力を各々が創り、発信できるような土壌をつくろうと裏方として若い世代の応援をしたり、人を繋いだりなど種まきをしています。

千葉さんの言葉はそう思わせてくれました。

松島は、あの世と
この世を繋ぐ霊場。
それを、忘れてはいけない



(上)新しく整備された参道の杉並木。
(左)東日本大震災の際、境内地にある陽徳院に地元住民や観光客が避難しました。
(右)「松島流灯会 海の盆」は2011年から毎年行われています。

震災は、私たちに大きな気づきを与えるきっかけになった

2011年3月11日。東日本大震災が起こったその時、瑞巖寺には観光客の姿がありました。「まだ寒い時期だったこともあり、いつもに比べたらお客さまの数は少なかったんです。それでも、人命最優先ということで、避難対応を行いました。それから職員の安否の確認、建物内の宝物などの確認に追われました」と、稲富さん。

平成の大改修が震災の3年前から始まっており、重い瓦が取り外されていたこと、そして建立時から「筋交い」が全面に張られていたこともあり、本堂への被害はごく少ないもので済みました。

被災直後から境内地にある陽徳院が避難所としての機能を果たします。「ご近所の方から、たまたま松島に来ていた県外の方まで、いろいろな方がいらっしゃっていました。ある県外の方は、ある程

度落ち着いた頃に、『あの時は、ありがとうございます。とお礼に来てくださったんです。瑞巖寺は、人々にとっての「駆け込み寺」となりました。

被災沿岸部の中でも、松島は島々に守られて比較的被害が少なかった地域です。しかし、瑞巖寺のシンボリックな存在であった参道の杉並木は津波にさらされてしまいました。「塩分に浸かったことで、徐々に変色し、立ち枯れが連鎖的に起こりました。専門家にも見ていただきましたが、伐採することになってしまったんです。こうして伐採を余儀なくされた杉の数は、約500本。樹齢400年近い古木もあったそうです。杉を含めた新たな木々を植樹整備された参道は、以前とは打って変わった風景ではあるものの、これからの未来に向けての成長を感じるものとなりました。

「震災では、自然には勝てないということをお願い知らされました。そして、それをきっかけに思い出したんです。松島は、本来あの世とこの世を

つなぐ霊場であるということ。そういう場所に、私も含めた人間が住まわせてもらっている。まさに、おかげさまと言えるでしょう。そのことを地元の間は忘れてはいけないうし、今、きつと原点に戻る時期が来たのだと思います。そうした「霊場松島」としての畏敬の念を込めたのが、震災の年から始まった「松島流灯会 海の盆」。稲富さんも立ち上げの際のアドバイザーとして、活動しました。「松島の若手が中心になって立ち上げた、供養と鎮魂のためのお祭り、私たちの想いの集大成なんです。

「大きな被害を受けた地域の方や、今なお苦しさを脱することができていない方たちのことを思うと、心が痛むばかりではありません。でも、震災は、いろいろなことを考えさせるターニングポイントになったのではないかと私は思うんです」。松島を想い、敬う。稲富さんは、これからもずっと、この地で祈りを捧げていきます。

関連情報
～瑞巖寺落慶記念日本酒「国宝瑞巖寺」～

国宝瑞巖寺の落慶を記念し、松島の観光をさらに盛り上げるため、地域のみなさまとJR東日本東北総合サービス株式会社、浦霞醸造元株式会社佐浦が協力して開発した日本酒「国宝瑞巖寺」が数量限定で販売されています。

詳細は [浦霞 国宝瑞巖寺](#) で検索



PROFILE
瑞巖寺 管理課長
いなとみ けうん
稲富 慶雲さん
1977年松島町生まれ。2003年より瑞巖寺に奉職。「松島流灯会 海の盆」の立ち上げ時のアドバイザーとしても活動。

NOW IS. 26

発行：2018年6月11日 宮城県震災復興本部(事務局：震災復興推進課)
〒980-8570 宮城県仙台市青葉区本町3丁目8番1号
Tel:022-211-2408 Fax:022-211-2493
「復興情報発信プロジェクト NOW IS.」は、宮城の復興の「いま」を伝えるプロジェクトです。

宮城県
Miyagi Prefectural Government

INFORMATION from MIYAGI

〔宮城県からのお知らせ〕

01 未来(あした)への道
1000km縦断リレー2018

青森から東京まで東日本大震災の被災地域を、ランニングと自転車をつなぐ「未来(あした)への道 1000km縦断リレー2018」(主催：東京都等)が「みちのくから、つながろう。」をスローガンに開催されます。宮城県内のスケジュールは下記のとおりです。詳しくはホームページをご覧ください。
(<http://www.1000km.jp/>)

- 7/28 陸前高田～唐桑～気仙沼～南三陸さんさん商店街
- 7/29 南三陸さんさん商店街～津山～雄勝～女川～石巻～東松島～松島町役場
- 7/30 松島町役場～塩竈～七ヶ浜～多賀城～宮城県庁
- 7/31 宮城県庁～名取～岩沼～亙理～山元～相馬

● 県オリンピック・パラリンピック大会推進課
☎022-706-7115

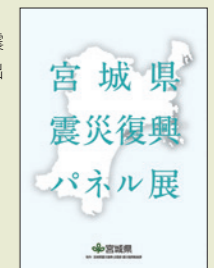


02 「みやぎ・復興の歩み7」の
パネルをお貸しします!

東日本大震災から7年が経過した、宮城の復興の様子や復興に向けて取り組む方々をまとめた冊子「みやぎ・復興の歩み7」のパネルを作成しました。震災復興関連のイベント等への貸し出しも受け付けておりますので、詳細は、「みやぎ復興情報ポータルサイト」からご確認ください。
※平成29年度に作成した「震災復興パネル2017」の貸し出しも行っております。

詳細は
[みやぎ復興情報ポータルサイト](#)
で検索

● 県震災復興推進課
☎022-211-2408



MEDIA INFORMATION

みやぎ復興情報ポータルサイトは
こちらから!

<http://www.fukkomiyaagi.jp>

宮城の復興情報を発信する、「みやぎ復興情報ポータルサイト」を公開しています。復興に関するお知らせや復興の進捗状況、復興に向けた取り組みなどを発信します。

最新情報を
ブログで!

今月のブログピックアップ

宮城発!
元気と食の
最新情報

一般社団法人
IkiZen

このブログでは、被災地企業や団体のさまざまな取り組みを発信しています。今回は被災した亙理町で「みやぎのあられ」を、原材料のもち米から製造販売している宮城のあられ株式会社をご紹介します。

もう一度
振り返る
私の3.11

東日本大震災で体験したことや、現在の想いを募集しています。詳しくはWEBサイトをご覧ください。

震災の記憶の風化防止や、防災意識をより高めるために、2011年3月11日を振り返っててください。当時の状況や行動、それが「いま」にどうつながっているのか、WEBサイトを通じて多くの人と共有できればと考えています。

詳しくは、「みやぎ復興情報ポータルサイト」内の「NOW IS.復興レポート」をご覧ください。

- いまを発信! 復興みやぎ SNS「いまを発信!復興みやぎ」では、取材チームが見た被災地のいまを発信しています。皆さまからの投稿もお待ちしております。ハッシュタグ「#fukkomiyaagi」をつけて、撮影した画像をお寄せください。
- NOW IS.メールマガジン NOW IS.の発行日(土日・祝日のときは翌平日)にメールでお知らせします。 [NOW IS.メールマガジン](#) で検索して登録!

震災の伝承
防災減災の取り組み

×
ミヤギテレビ

震災の伝承や
防災・減災に取り組む
活動をご紹介します。

「創る・あした」
放送や様々な取り組みで震災を伝え続ける

ミヤギテレビでは、日々のニュースで復興の歩みを伝え、節目には全国放送でドキュメンタリーや報道特番を制作し、県内外に震災を伝え続けています。2012年に発足した「震災復興プロジェクトチーム」では、家庭で防災・減災を学ぶハンドブック「おまもりてちょう」を制作し、県内すべての新入学児童に配布しています。今年度からは「ミヤテレMoTo」で、沿岸部をドローンで空撮し配信を進めています。これからもミヤギテレビは、力強く宮城の復興を応援していきます。

創る・あした
～伝えていきます～
ミヤテレ震災復興プロジェクト

2018.6.11

Vol.

26

June, 2018

ナウイズ
毎月11日発行

宮城は現在も
現実に
立ち向かう。

NOW IS.



瑞巖寺
稲富慶雲

おかげさまのところで、 これからも生きていく—

日本三景のひとつである松島には、日本全国、そして世界中から多くの観光客が訪れます。その松島の象徴的な存在が、国宝瑞巖寺。

平安時代に建立されたと伝えられ、一時は衰退するものの、伊達政宗公の庇護を受けて再建。以来、伊達家の菩提寺として栄えてきました。

今年は、10年にも及んだ平成の大改修を終え、6月に落慶法要が行われるほか、東日本大震災で被害を受けた参道の杉並木の植え替えも終了。寺としてひとつの区切りを迎える瑞巖寺で、建物の管理担当者として、平成の大改修にもかかわったのが、稲富慶雲さんです。四大観のひとつ、麗観富山に自坊を構える稲富さんに、故郷・松島に寄せる想いを伺いました。